

# Pogonomyrmex barbatus

(Smith, 1858)

南西部の砂漠や草原にすむ、大型で赤い種子収穫アリ。刺されると痛い、コロニーは20〜30年生きます。



写真： Jake Nitta (froggy143), CC BY 4.0

## ひと目でわかる情報



巣の温度  
**26-32 °C**

巣の中



巣の湿度  
**50-70 %**  
穀物庫：30-50 %



休眠  
**12-16 °C**  
12月 - 2月



結婚飛行  
**6月 - 9月**  
雨のあと、暑い日、穏やかな天気



働きアリ  
**6-10 mm**  
どれも同じ大きさ



女王  
**11-13 mm**  
女王は1匹

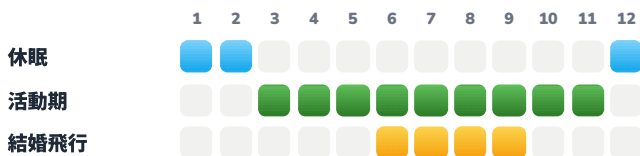


コロニーの規模  
**働きアリ10,000匹規模**  
成長速度：普通



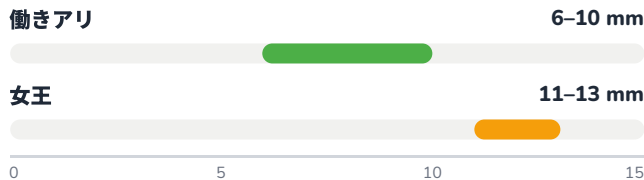
脱走リスク  
**中程度**  
アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう

## 1年をひと目で



この種の実産地での月です。正確な日は天気で決まり、室内で飼育しているコロニーは別のリズムになることがあります。

## 同じ縮尺での大きさ



## 飼育の早見表

### 食べ物

種子

昆虫

砂糖

### おすすめの巣

1. 自然再現型のセットアップ
2. Ytongの巣
3. アクリル製の巣

### この評価の理由

- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ✓ 種子を貯めるので、餌やりを忘れても問題ありません
- ⚠ 好奇心が強い働きアリなので、アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう
- ⚠ 乾いた穀物庫と湿ったブルード室のように、湿度の勾配が必要です
- ⚠ コロニーが巨大になるため、広げられる余裕が必要です
- ⚠ 働きアリが刺すことがあります

## 飼育者からのメモ

### ヒント

成長のカギは暖かさです。巣の暖かい端をヒートケーブルかヒートマットで約30°Cに保ち、残りは涼しいままにしておきましょう。販売業者の報告では、約24°Cを下回るとブルードの発育がずっと遅くなり、ふつうの室温ではコロニーがほとんど大きくならないそうです。

### 注意

はちみつ水だけでは足りません。ある飼育者は、8つの若いコロニーにはちみつ水だけを与えたところブルードが減っていくのを目にし、砕いた種子を置いておき、昆虫を週に2〜3回与えるよう助言されました。ケンタッキーブルーグラス、タンポポ、チアなどの小さな種子を与え、芽が出たりカビたりした種子は取り除いてください。